平成 31 年度　交通に関する大井地区意見交換会　議事要旨

日　時：平成 31 年 4 月 18 日（木）　10：00～11：30
場　所：大井公民館研修室
事務局：萩市商工振興課、日本工営㈱
ご参加：住民の皆様 12 名

1. 開会
事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）
山本部長：（省略）

3. 議事
（1）資料１「萩市全域の公共交通の現状と課題及び基本方針（案）について」
　　資料２、３「萩地域の公共交通の課題と将来像（案）について」
事務局：資料１、２、３を説明（省略）
意見交換：
参加者：今回の目的を明確にしていただきたい。既存のバス路線を否定して、新たなバス運行体系を作るものなのか。アンケート結果では、路線バスの課題として、便数が少ない、バス停が少ないなどの意見もあるが、どこにでも見られる課題である。本当に、地域の人間が何のために萩に行かなければならないか、明確にならないとわからない。
事務局：今回の計画は、今ある公共交通を否定するものではない。現状の運行体系と住民のニーズを踏まえた運行体系を考える。萩市内に行く場合、奈古に行く場合、住民それぞれで目的が異なる。全てのニーズに応えることは難しいが、より多くの人のニーズに合った運行体系を検討する。
参加者：まぁーるバスの現状は、買い物や病院での利用よりは、観光客の利用が多いのではないか。
事務局：利用時の目的地は、いろいろなケースが考えられる。その目的地に、可能な限り充足できる運行体系を考える。また高齢化社会の中で、地域内の移動でさえ出来ない状況もある。このような状況もあり、自宅から高齢者の移動しやすい方法を考えら

れる。例えば、三見地区のようなボランティアによる運行体系も地域の支えあいの一つの例として考えられる。

参加者：「段階を踏む」ということは、町内で話し合いを継続しながら、段階を追っていくということか。

事務局：今回の説明会が、ご指摘の通り、段階を踏む最初の一歩となる。また地区の社会福祉協議会の中で話し合いもしながら進めていくこともある。また国の方も、自家用有償旅客運送などの制度で対応方法を提示している。
今回の対応方針は、計画で大きな方向性は位置づけるが、すぐに対応できるものでもなく、また地域の話し合いも必要である。今後、年次計画を策定しながら、できるところから実施する予定である。また地域に赴き、お困りごとを伺いながら作業を進める予定である。

参加者：ここから萩に出かける際、路線バスからまぁーるバスに乗り継いで向かっている。まぁーるバスは、病院など、高齢者のアクセスポイントを見定めたうえで、利用者の利便性に応じて、（路線再編等を）対応していただけないだろうか。

事務局：路線バスとまぁーるバスの乗り継ぎ情報があると、利便性は向上するか。

参加者：ダイヤ上の接続方法や、情報提供などがあれば利用しやすくなると思う。

事務局：まぁーるバスの利用の大半は市民である。路線の再編に当たっては、分かりやすい情報を提供できる交通体系を作っていく。現状でまぁーるバスから路線バスへ乗り継いでいる人は、１割程度となっており、乗り継ぎの利便性向上も必要だと考えている。

参加者：資料２、P15 の乗車券割引制度は、この乗車券を利用して、路線バスとまぁーるバスを乗り継げるということか、

事務局：越ケ浜までなら、本乗車券を活用できる。

参加者：越ケ浜から乗る人は 500 円券やバスカードを利用する人が多い。大井もそのような割引制度があると助かる。

事務局：１日乗車券は区域が決められており、例えば越ケ浜まで通常 800 円必要だが、500 円で萩市内へ行ける割引制度である。わかりにくいところもあるので、今後、共通乗車券等も含めて検討する。

参加者：大井にも、越ケ浜のような同様の制度ができると助かる。

事務局：特に周辺部の居住者の負担感が大きいので、料金の割引や、利便性の向上等、今後しっかりと検討する。

参加者：たまにバスを利用した人の意見では、越ケ浜から大井までの区間路線を超えただけで、料金が大きく上がったなどの意見もみられた。特に高齢者の人にとっては大変な負担である。料金を考えて頂きたい。

参加者：これまで、これほど大井地区にスポットを当てられた説明会はなかったように思う。

参加者：大井は市内から距離があるので、料金が高い。また住居の場所によっては、バス停まで行けない人もいる。タクシーの往復で 5,000 円ぐらいかかる。福祉関係の補助も公共交通との兼ね合いで制限がある。このような状況で、例えば、ほとんど利用されていない社会福祉協議会の車両を地区内でぐるぐる運行すると、乗る人もいるのでは。また三見のデマンド運行などの制度は、ちょうどいいように思える。さらには、今回の意見交換会は夜の時間帯にもしていただけると、より多くの人の意見も聞けるのではないか。また社会福祉協議会で議題に挙げることも考えられる。

事務局：社会福祉協議会では、すでに話をしており、移動の問題は、やはり大きな課題となっている。また市の車両は、サロン活動やイベント参加などでは利用することが出来ることとなっている。

参加者：大井は買い物難民が多い。スーパーが一軒もない。本車両を利用して、萩市内の買い物施設に連れて行くと、タクシーのようになるので、制約上できない。また、本車

両の周知もうまく広まっていないのも利用できていない理由である。

事務局：市の方でも周知が必要であると理解している。まずはサロン活動のほうから、使っていただけるとよい。

事務局：高校生の路線バスの利用状況はどのような感じか。

参加者：長門大井駅に自転車を置いて、電車に乗り換える。東萩駅で降りた後にまた自転車に乗っており、自転車２台で対応している。バスの定期代が高いと聞いている。高齢者は、鉄道はあまり利用していない。鉄道だと市内で降りた先で時間がかかるので利用していない。バスの方が直接バスセンター近くの買い物施設や病院に行けるため利便性がよい。鉄道は、どうしても時間帯がないときに利用する。

参加者：子供の数は減っている。萩まで自転車で通学している人も多い。大井は陸の孤島と呼ばれている。

事務局：旧郡部等の周辺部は高齢化が進んでいる。例えば吉部からバスセンターまでは 1,120 円かかるような場所もある。他の地域でも同様の課題がある。社会福祉協議会の方にも、コミュニティ等で話すようにするので、今後の対応策を皆で協議していきたい。

参加者：港側の方にも集落はあるので、バスを回してほしいとの意見もあった。

事務局：道路の幅員など、物理的な面での対応も含めて、検討したい。港に住まいの人が多いことは認識している。

参加者：港に住まいの方は、案外車を持っていない人も多いため対応していただけるとありがたい。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上